

門脇町で避難路整備

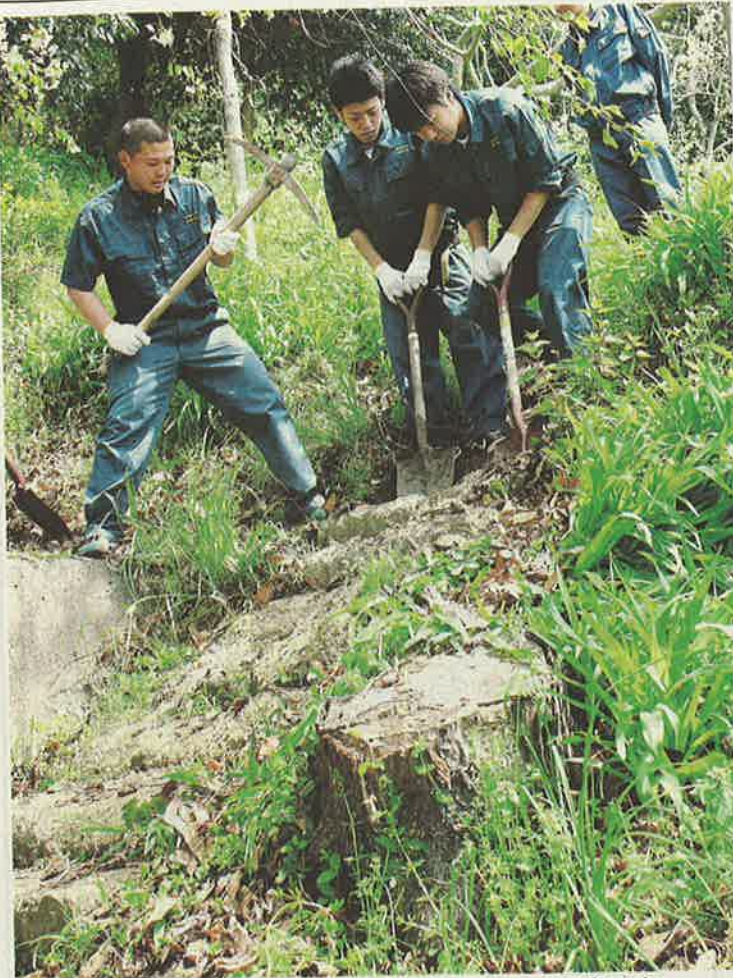
石巻工高3年生ボランティア活動

道路清掃や看板設置も

石巻工高(今野基校長、生徒694人)の3年生240人が1日、石巻市門脇町で、避難路の整備や清掃活動、路上商店街「通りの駅」の看板設置を行った。

今春の選抜高校野球大会に21世紀枠で初出場した野球部監督でもある松本嘉次教諭(44)は3学年主任らが奉仕活動を提議して作業を実施した。避難路は、門脇町2丁目石巻ローンテニスクラブ裏手から、日和山の鹿島御用神社参道途中へとつながる私有地。所有者が開放しているが、石段が老朽化して斜面のようになり、上り下りにくくなっていた。市内で被災者支援を担う石巻医療圏健康・生活復興協議会(武藤真祐理事長)へ住民から不安が寄せられ、協議会の仲介で実現した。

野球部の生徒が多く在籍する土木科は、避難路の整備を担当。ツルハシやスコップを使って古い石段を撤去したり、新しい階段に使う石を運んだりした。運動部所属の生徒も、重い石柱の運搬には苦戦。野球部の阿部翔人主将は「地元なので、自分たちの力で整備できてよかった。甲子園の応援へのお返しになればいい」と奮闘していた。松本教諭は「ボランテ



日和山へ続く古い石段の撤去作業をする石巻工高の3年生=石巻市門脇町2丁目

アに来てくれるのは、県外の人が多い。地元の人間が、こういった作業をやることに意味がある。子どもたちの記憶にも残ると思う」と話した。

門脇町2丁目の主婦遠藤佳子さん(58)は「次にもしものことがあった時、日和山への逃げ道がしっかりしているのは心強い」と感謝していた。

避難路は後日、石巻医療圏健康・生活復興協議会が新しい石段を設置し完成させる。



優勝を目指し熱戦を繰り広げる選手=石巻市総合体育館

本一が共に地区中学校の練習制した。昨年は東影響で中止の開催。20チームがツトのトで試合を行い男女とも会の上位校勝ち。男子桃生の顔合セツトカウ迎えた最終が25・22で

遊具に子どもら歓声

石巻市鹿妻第5公園 住民、支援者完成祝う

東日本大震災で多くの公園が被災する中、子どもたちが安心して遊べる公園が被災する中、子ども

もたちや親子が安心して遊べる場として、石巻市鹿妻北1丁目の鹿妻第5公園が遊具を配置したきれいな公園として生まれ変わり、4月28日、オープニングセレモニーがあった。

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンがユニリーバ・ジャパンの支援を得て整備。子どもたちの希望に添え、滑り台や綱渡りなどで構成するプレイポットアドベンチャーやブランコなどの遊具を設置した。

公園(約1400平方メートル)は冠水したほか、震災後はがれき置き場になり、憩いの場としての機能を果たしていなかった。



歓声を上げて遊ぶ子どもたち=石巻市第5公園

セレモニーでは、セーブ・ザ・チルドレンや地域住民代表らがテープカットして完成を祝った。早速、子どもたちが歓声を上げて自由遊びなどに興じた。

「消防車は災害時にやすい電話た防災意識スラリーな鹿妻小5